

平成26年度

施策評価マネジメントシート(平成25年度の実績評価)

記入年月日

平成 26 年 6 月 17 日

施策No.	政策名	快適で潤いのある生活環境づくり	主管課	下水道課	主管課長名	根本 貞興
407	施策名	下水道の整備	関係課	農業委員会事務局、学校教育課、給食センター、商工観光課、健康推進課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	市民	①桜川市人口	見込値	人				45,122	44,571	44,020	43,469	42,920	41,897
実績値					46,575	45,673	45,105	44,449	43,826				
見込値								13,709	13,393	13,077	12,761	12,446	12,130
②桜川市世帯数		見込値	世帯					13,709	13,393	13,077	12,761	12,446	12,130
		実績値				14,137	13,630	13,709	13,686	13,768			
		見込値											
快適で衛生的な生活環境で暮らしてもらう	①生活排水処理普及率	目標値	%				63.0	64.5	66.0	67.5	69.0	70.0	
		実績値			59.4	61.5	63.0	66.8	68.9				
	②公共下水道普及率	目標値	%				15.0	15.5	16.0	16.5	16.5	17.0	
		実績値			13.8	14.4	15.1	15.6	15.5				
	③桜川の水質(BOD) (市内の最下流「地藏橋」地点)	目標値	mg/L				1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
		実績値				1.1	1.1	1.1	1.8	0.9			
成果指標設定の考え方	<p>○「快適で衛生的な生活環境で暮らしてもらう」の指標については、①生活排水処理普及率、②下水道普及率をもって、指標が上がれば成果が上がると考えられる。</p> <p>○「公共水域の水質汚濁防止」について、桜川の市内の最下流「地藏橋」地点の水質(BOD)のみ。【基準値2.0mg/L】</p>												
成果指標の把握方法と算定式等	<p>○対象の桜川市人口は毎年10月1日現在の常住人口</p> <p>①生活排水処理普及率は、市の人口のうち、下水処理(公共下水、農業集落排水、合併浄化槽)に接続している割合</p> <p>②下水道普及率は市の人口のうち、公共下水道処理区域内人口の割合</p> <p>③桜川の水質は、地藏橋地点のBODの年平均値とする。(環境対策課で調査)</p>												

2. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	1)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民や地域、行政と協働でやるべきこと)	2)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
	<ul style="list-style-type: none"> ○下水道事業(農業集落排水を含む)に対する理解を深め、下水道整備地区においては速やかに下水道に接続する。 ○家庭や事業所において、分解が困難な汚水を極力流さない。 ○単独浄化槽から合併浄化槽への転換を早急に整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○下水道事業の効率的で健全な事業運営に努める。 ○下水道事業の普及啓発に努める。 ○下水道接続申し込みに迅速に対応する。 ○下水道処理区域外の地区に対しては市設置型の合併浄化槽の推進をはかる
状況変化	3)施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?	4)この施策に対して住民、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	<ul style="list-style-type: none"> ○景気低迷により財源確保がさらに困難になる。 ○高齢化の進行に伴い、高齢世帯、高齢単身世帯が増加する。 ○計画区域について(H24認可変更の年)効率の面を考慮して見直した(合併浄化槽設置など)。 ○農集排の整備予定はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○下水道整備の必要性に対する市民の期待意識は高いと思われるが、接続に要する費用や受益者負担金などに負担感がある。 ○高齢世帯では新たな費用負担に対する抵抗感が原因と考えられる。 ○一般的に経済情勢が悪いため、低所得者世帯からは敬遠されている。

3. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
① 下水道の接続及び浄化槽の設置	市民	公共水域の水質を保全する	生活排水処理普及率	実績値							
				%	61.5	63.0	66.8	68.9			
② 公共下水道の整備	公共下水道施設	計画的かつ、効率的に整備される	公共下水道整備面積	実績値							
				ha	276.3	282.2	289.8	291.8			
③ 下水道事業の安定した経営	下水道事業	下水道事業の経営を安定させる	収納率	実績値							
				公共下水	81.0	83.5	83.3	89.0			
				農集	98.0	96.3	96.8	97.4			
				市浄化槽	98.2	100.0	99.1	98.9			

4. 施策のコストの実績(施策を構成する事務事業シートより積算)

項目	単位	24年度実績	25年度実績	26年度予算
①本施策を構成する事務事業の数	件	20	19	20
②施策事業費(一般財源以外)	千円	303,764	281,808	267,493
③施策事業費(一般財源)	千円	205,009	241,460	282,294
④施策事業費の計(②+③)	千円	508,773	523,268	549,787
⑤施策人件費(事務事業の人件費合計)	千円	46,758	106,939	104,871
⑥ 計 (④+⑤)	千円	555,531	630,207	654,658

5. 施策に関連する主要事業等

区分	事務事業名	摘要
主要事業	市設置型浄化槽の普及拡大事業	公共下水道、農集排区域以外の市民が対象。市が設置及び維持管理を行なう。H18から実施。
主要事業	基幹となる管渠整備の推進	後期基本計画主要事業 効率的に整備をすすめる。
事務事業	公共下水道普及促進事業	H25貢献度上位、H26優先度上位
事務事業	農業集落排水接続推進事業	H25貢献度上位、H26優先度上位
事務事業	下水道受益者負担金・使用料徴収事業	H26優先度上位

施策番号	407	施策名	下水道の整備	主管課	下水道課
------	-----	-----	--------	-----	------

6. 施策の成果水準とその背景・要因

1)–①現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<ul style="list-style-type: none"> 生活排水処理普及率は25年度末で68.9%、24年度に比べて2.1ポイント増加している。これは主に下水道と合併浄化槽の普及が進んだことによる。25年度は3地区ともに普及が進んだ。 公共下水道を対象とする下水道普及率は25年度末で15.5%、24年度末は15.6%であり、0.1ポイント減となった。この要因は処理区別内人口を住基台帳を基にみなおしたことで利用者の人口が減少した。 供用開始地区における接続率は、24年度末39.5%から25年度末43.3%へ増加した。その要因として、20年度から公共下水道接続工事費補助金を導入した事と、接続キャンペーンと戸別訪問を行ったことによるものと思われる。 桜川の水質については、市内下流の地蔵橋地点の水質でみると、水質基準を満たしている。 H19から比較しても成果は向上している。 		

1)–②成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてが上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> すべての成果指標で目標値を下回った
背景・要因	<ul style="list-style-type: none"> 生活排水処理普及率は、25年度目標値が66.0%に対し68.9%であり2.9ポイント上回った。 公共下水道普及率は、25年度目標値16.0%に対し、15.5%と0.5ポイント下回った。 桜川の水質(BOD)は、25年度目標値1.0mg/Lに対し、0.9mg/Lであり0.1ポイント上回った。 		

2)他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば低い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり低い水準である	
背景・要因	<ul style="list-style-type: none"> 生活排水処理普及率は県平均(25年3月時点)の79.3%、で桜川市は68.9%で県平均より低い。下水道普及率も県平均(25年3月時点)が58.4%、県西が37.5%、桜川市は15.5%となっており、これらに比べても低くなっている。公共下水道整備の開始が平成10年4月と他団体に比べると遅かったためである。 接続率も低い状態である。その要因としては、浄化槽(合併・単独)の普及が進んでいるため、接続の必要性を感じないこと、高齢世帯では新たな費用負担に対する抵抗感が原因と考えられる。そのため20年度から公共下水道では設備設置費に対して接続工事費補助金を創設した。 		

3)住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準なのか、同程度なのか、低いのか)、その他の特徴は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の期待とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり低い水準である	
背景・特徴	<ul style="list-style-type: none"> 下水道整備の必要性に対する市民期待認識は高いと思われる、ただ接続に要する費用や負担金が多い。 総合計画後期市民アンケートによれば、優先度と満足度も低い位置にある。 		

7. 施策の成果実績に対しての、これまでの主な取り組み(事務事業)の総括

前年度の取組状況と課題	<ul style="list-style-type: none"> 25年度においては、公共下水道・農業集落排水の「未接続世帯」を重点対象に、「下水処理を施してもらおう」、「収入の確保」することを重点的に取り組んだ。 事務事業貢献度評価結果から、施策の成果に貢献した事務事業は、「公共下水道普及促進事業」「農業集落排水接続推進事業」「市設置型浄化槽整備事業」「公共下水道整備事業」「下水道受益者負担金・使用料徴収事業」であった。 「公共下水道普及促進事業」では、333軒の戸別訪問を行い71軒が接続された。 「市設置型浄化槽整備事業」では、5人槽を22基、7人槽を20基、10人槽を4基で計46基を整備した。 「公共下水道整備事業」では、岩瀬地区で2haの区域を管渠(下水道管)の整備を行なった。 「下水道受益者負担金・使用料徴収事業」は、20年度から、公共下水道接続工事に要する費用の一部を補助する制度を新たに創設し、平成25年度は8件に補助した。また、下水道事業のPR及び接続キャンペーンを実施し、真壁地区で県職員と共同で未接続世帯への戸別訪問による接続推進を図った。またその様子を市広報誌に掲載し接続促進を啓発した。 「農業集落排水接続促進事業」では、谷貝地区で、分館において未接続世帯に対して接続キャンペーンを実施した。また、桜川市祭イン真壁において全体キャンペーンを実施した。 その他の事務事業では指定工事業者等指導管理業務において、25年度で新規登録11件あり桜川市の指定工事は、125件となった。
-------------	--

8. 今後の課題と方針

区分	今後の課題	今後の方針
施策全体	<ul style="list-style-type: none"> 清潔で快適な生活環境を確保するとともに、河川や湖沼等の公共用水域の水質を保全するため、下水道・合併処理浄化槽等の整備を進めます。 下水道区域については全体計画の見直しに基づき、効率的な事業運営を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共下水道整備については、効率的な工事を施工することが必要。 現状では、公共下水道事業の計画区域の事業を完了するには相当な期間を要するので、市街地浄化槽による対応の必要がある。 市設置型浄化槽については、まだまだ認知度が低いので、さらにPR活動を強化していく。 維持管理負担金については見直しをするよう協議会に要望していく。
基本事業	①下水道の接続及び浄化槽の設置	<ul style="list-style-type: none"> 公共下水道、農業集落排水の供用開始地区における接続率向上に向けて、支援制度の周知や訪問活動などによる普及活動を行います。 また、市設置型浄化槽区域では、PR活動を強化し普及を図ります。
	②公共下水道の整備	<ul style="list-style-type: none"> 財政状況等を踏まえた整備計画の見直しや、下水道整備を行います。 また、整備工事にあたっては、効率的な施工を行います。
	③下水道事業の安定した経営	<ul style="list-style-type: none"> 下水道事業の安定経営のため、受益者負担金及び使用料の徴収率の向上を図ります。 また、施設の適切な維持管理に努めます。